

IV 末文

游覽學(1)の序

遊覽學(1)の序 遊覽學(1)の序 遊覽學(1)の序 遊覽學(1)の序 遊覽學(1)の序

遊覽學(1)の序 遊覽學(1)の序 遊覽學(1)の序 遊覽學(1)の序 遊覽學(1)の序

遊覽學(1)の序 遊覽學(1)の序 遊覽學(1)の序 遊覽學(1)の序 遊覽學(1)の序

IV 末文

以上、情報ネットワーク館建設に係る埋蔵文化財の発掘調査に関し報告を行った。黒髪キャンパス北地区では、現在まで大規模な建物建設等に関わる発掘調査例は少なく、立会調査等で断片的にしか判明していなかったのであるが、今回の情報ネットワーク館関連の発掘調査により、改めて黒髪北キャンパスには遺跡が良好な状態で埋蔵されていることが確認された。

0425調査地点および0538調査地点で検出された古代の集落址は、竪穴住居址・掘立柱建物跡等からの出土遺物より、7世紀末から9世紀前半に時期比定される。これは黒髪北地区北東端に所在する、くすのき会館建設時の発掘調査（黒髪北地区9407調査地点、小畑編2003）で検出されている竪穴住居址や、その他の遺構の時期と大差なく、少なくとも黒髪北キャンパス東半に当該時期の集落が広がり、その時期の遺跡が埋蔵されている可能性は非常に高いといえよう。

また、既往の調査成果を含めると、正字「國」銘の土製印（黒髪南地区9412調査地点・小畑編2003）や、刻書土器「馬」（9407調査地点、小畑編2003）、今回の0425調査地点出土の石製権など、一般集落とは様相を異にする、官衙・駅家との関連を示唆する遺物も出土している。遺構でも、黒髪南地区の0204調査地点で検出されている道路状遺構（大坪編2003）など、古代において黒髪地区が交通の要地であったことを示唆するものである。このように、熊本大学黒髪地区には、熊本の古代を探るうえで重要な遺跡が埋蔵されていると言える。

また、0425調査地点・0525調査地点で出土した縄文土器や石器は、この地が縄文時代においても、人々の生活の場として機能していたことを示すものである。情報ネットワーク館関連の調査では、古代の遺物とともに出土し、出土状況は決して良好なものではなく、また縄文時代の遺構は検出されなかったが、縄文時代の各時期の土器型式が出土している状況をみれば、黒髪北キャンパスの地下に縄文時代の遺構が存在する可能性も十分に考えられる。

さらに、黒髪南地区では弥生時代の甕棺墓も検出されており、縄文時代・古代に限らず各時代の遺構・遺物が埋蔵されている可能性は高い。

今回の情報ネットワーク館関連の発掘調査では、黒髪キャンパスに広がる遺跡の一端が明らかになったにすぎず、遺跡の全容解明は今後の調査成果に期待される所であるが、本調査報告が将来的に、黒髪町遺跡群の解明に資する所があれば幸いである。

【参考・引用文献】

網田龍生 1994「奈良時代 肥後の土器」『先史学・考古学論究』197～254頁 龍田考古会

大坪志子編2003「Ⅱ-2 0204調査地点」『熊本大学埋蔵文化財調査室年報9』9～24頁

熊本大学埋蔵文化財調査室

小畑弘己編2003『熊本大学構内遺跡発掘調査報告1（1994・1995年度）』

熊本大学埋蔵文化財調査室

木下 良 1975「肥後国府の変遷について」『古代文化』9-27、1～19頁 古代学協会

木下 良 1995「肥後の古代交通路」『火の国の原像』第10回熊本地名シンポジウム記録、13～35頁

吉田正一編1994『大久保遺跡』熊本県文化財調査報告書第143集 熊本県教育委員会